

研究課題(テーマ)	看護学部における数学・情報学関連講義・演習科目の準備と実践およびそれらの改善		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	工学部教養教育センター	教授	戸田 晃一
	工学部教養教育センター	教授	石森 勇次
	工学部教養教育センター	教授	小林 一也
	工学部教養教育センター	准教授	杉山 弘晃
	工学部教養教育センター	講師	土井 一幸
研究結果の概要			
<p><目的></p> <p>工学部教養教育センターとして、これまでの二年間の準備期間中に、他大学看護学系学部・学科や看護専門学校のカリキュラムを調査し、県立大工学部でのこれまでの教育経験を考慮して、昨年度中に看護学部(看護学科)の教養科目のカリキュラムおよびシラバスを作成した。</p> <p>今年度の実際の教育実践による教育効果を検証し、問題点を洗い出し、対策を講じることで次年度以降の教育に繋げていくことを、本プロジェクトの目的とする。</p> <p>なお、本プログラムの対象科目は、教養科目(自然・情報)の中で、「情報科学演習(一年次前期・1単位・必修, 小林教授担当)」、「情報科学(一年次後期・2単位・必修, 小林教授担当)」、「数学(一年次後期・2単位・選択必修, 石森教授担当)」などである。</p> <p><2019年度の活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 2018年度に行った看護学部の数学・情報系の教育計画を2019年度に実践した。実践した結果の精査を2020年度前期中には行い、今後活かす。 ● キャンパス間(富山市と射水市)には物理的距離の問題がある。工学部教養教育センター所属の教員は射水キャンパス内に教員室や研究室があるので、通常は富山キャンパスには担当講義の前後しか滞在していない。講義の質問を含む学習相談などにどのように対応するかが、早急に解決すべき大きな問題の一つであった。そこでオンラインでの質疑応答や学習支援の可能性を探った。 ● 高校の教育現場で実際に使われている教科書や参考図書などの現物を収集し、内容を詳細に検討した。さらに、工学系数学基礎教育研究会などが開催した研究集会に積極的に参加し、高校での教育現場の声や実情、他大学の状況に対する情報収集や意見交換をおこなった。本項目は当初の予定通り行うことができた。 ● 富山県立大学紀要(第30巻, 2020年3月)掲載論文にて、本プログラムで得られた情報(の一部ではあるが)を発表し、本学の全教員に情報提供をおこなった。本項目は当初の予定通り行うことができたが、今後も機会があれば積極的に続けていく。 			
今後の展開			
<ul style="list-style-type: none"> ● 2019年度に実施した「看護学部の数学・情報系講義」の学生の受講態度や成績状況などを精査し、2020年度以降の講義や学習支援などに活かしていく。多様な入試により入学してきた一年次生が、高校から大学への環境変化にスムーズに適応し、より効果的な初年次教育を受けることが期待される。 ● 本プログラムにおいて、オンラインでの学習支援の可能性を探った。ここでの検討内容は、そのまま遠隔授業に転用可能である。そして、その実践を2020年度前期に早速行うことになった。予定外であったが、せつかくの機会であるのでいろいろと試してみたい。 			